

東京大学大学院人文社会系研究科附属 北海文化研究常呂実習施設 平成 27 (2015) 年度の活動記録

(1) 活動の概要

平成 27 (2015) 年度における、本施設での主要な動向は以下の二点である。第一点は人事異動で、平成 26 年度末をもって國木田大助教が本学人文社会研究科次世代人文学開発センター特任助教に転任し、後任として夏木大吾が平成 27 年 4 月 1 日付で当施設の助教に就任した。第二点は博物館学実習 A の開講時期の変更である。当施設で開講している文学部一般講義の博物館学実習 A は、平成 26 (2014) 年度まで前期の集中講義期間 (概ね 7 月末頃) に開講していたが、平成 27 年度より 4 ターム制が導入されて全学及び文学部の授業日程が大幅に変更されたため、本年度は夏期の開講が困難になった。そのため開講時期を冬期に変更し、平成 28 (2016) 年 1 月 25 日から 2 月 2 日の日程で実施した。資料陳列館には暖房設備がないため特に企画展の制作実習には多大な困難を伴ったが、何とか展示を完成させることが出来た。なお、この授業日程の変更により、昨年度は夏期に開講した本学の体験活動プログラムについても日程の変更が必要となり、本部学生支援課とも協議の上、3 月の開催として参加募集を行った。しかし開催日程に無理があったこともあって参加希望者が集まらず、本年度の体験活動プログラムの開催は見送りとなった。この体験活動プログラムについては平成 28 年度にも再度、参加学生を募集する予定である。

以下、項目別に平成 27 (2015) 年度における本施設の活動の概要を記す。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費助成事業基盤研究 (B) 「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度) である。本研究課題では、後述する大島 2 遺跡の発掘調査を軸として北海道・東京などで調査研究を実施した。またこの課題は本年度が最終年度であったため、大島 2 遺跡の 1 号竪穴と 2 号竪穴の調査報告を中心とする研究成果報告書『擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動 ー大島 2 遺跡の研究 (1) ー』(東京大学常呂実習施設研究報告第 14 集) を刊行し、研究成果を総括した。

ほかに、考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費助成事業基盤研究 (A) 「環日本海北回廊の考古学的研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度) に熊木・夏木が連携研究者として加わり、サハリンとハバロフスクで実施された調査研究に参加している。また、北見市教育委員会と連携して平成 18 (2006) 年度から調査継続中の吉井沢遺跡では、夏木と考古学研究室の佐藤宏之教授が中心となって発掘調査を実施した。吉井沢遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。

教育活動では、夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」の調査として、平成 22 (2010) 年度より継続調査中の北見市大島 2 遺跡にて発掘調査を実施した。大島 2 遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。また、平成 26 (2014) 年度に初めて開講された文学部夏期特別プログラムについては、本年度にもその後半の部が常呂で開講され、9 名の学生がこのプログラムを受講した。

博物館学実習 A では実習課題として常呂資料陳列館の企画展を制作しているが、その成果である第 5

回の企画展「続縄文文化と交流」を、前述のとおり平成 28 (2016) 年 3 月から 5 月にかけて開催している。ほかにも同実習 A では、北見市が所蔵する考古資料の写真撮影や資料解説原稿を制作するなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

(2) 実習

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 27 年 8 月 17 日～8 月 31 日
調査遺跡	北見市大島 2 遺跡 3 号竪穴発掘調査
受講者等	学部生 5 名・大学院生 6 名 (TA を含む)・研究員 1 名・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 3 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 13 名・発掘体験講座参加者 7 名

博物館学実習 B

開講期間	平成 27 年 9 月 1 日～9 月 9 日 (9 月 10 日解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 5 名・大学院生 (TA を含む) 6 名

博物館学実習 A

開講期間	平成 28 年 1 月 25 日～2 月 2 日 (2 月 3 日解散)
実習内容	常呂資料陳列館第 5 回企画展「続縄文文化と交流」制作・北見市教育委員会所蔵資料を「文化遺産オンライン」website に掲載するための文字及び写真原稿作成実習・資料陳列館展示替え・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 10 名・大学院生 2 名・TA (大学院生) 1 名

(3) 特別プログラムなど

文学部夏期特別プログラム

開講期間	平成 27 年 8 月 8 日～8 月 15 日 (東京の部を含めた全体期間：8 月 1 日～8 月 15 日)
担当講師	熊木俊朗 松田 陽 (イーストアングリア大学 日本美術・文化遺産准教授)
プログラム内容	北見市大島 2 遺跡 4 号竪穴発掘体験・勾玉製作体験・土器接合体験・近隣の遺跡・博物館巡検・グループディスカッションなど
受講者等	東京大学学部学生 4 名、セインズベリー日本藝術研究所の公募学生 5 名、東京大学大学院生 (TA) 1 名、人文社会系研究科助教 1 名、東京大学文学部事務職員 3 名

(4) 調査研究活動

①研究助成金 (下線は当施設教員、以下同じ)

(当施設教員が代表者・分担者となった課題)

平成 27 年度 科学研究費助成事業 基盤研究(B) (平成 23～27 年度)

「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(課題番号: 23320166)

研究代表者: 熊木俊朗 連携研究者: 大貫静夫、佐藤宏之、設楽博己、夏木大吾

(当施設教員が連携研究者等で協力した課題)

平成 27 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (A) (平成 23～27 年度)

「環日本海北回廊の考古学的研究」(課題番号: 23251014)

研究代表者: 大貫静夫 連携研究者: 佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏、夏木大吾

②主な調査

ロシア連邦サハリン州 ゴルノザボーツク 2 遺跡の調査およびネベリスク周辺の資料調査

(サハリン国立大学との共同調査)

調査期間: 平成 27 年 6 月 20 日～6 月 25 日

参加者 (日本側): 大貫静夫・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・夏木大吾・久保田慎二

北見市大島 2 遺跡 発掘調査

調査期間等: 前掲 (野外考古学Ⅱの項) のとおり

北見市吉井沢遺跡 発掘調査

調査期間: 平成 27 年 10 月 11 日～10 月 28 日

参加者: 夏木大吾・佐藤宏之・熊木俊朗・山田哲・中村雄紀・吉留頌平・廣松滉一・小澤太一・木之内忍・尾田織好・ナタリア, ツィデノバ

ロシア連邦ハバロフスク州ハルピチャン 4 遺跡 遺物整理作業 (於: ハバロフスク州郷土誌博物館)

調査期間: 平成 27 年 1 月 14 日～1 月 17 日

参加者 (日本側): 大貫静夫・福田正宏・國木田大・夏木大吾

③教員による発表論文等

(熊木関連分)

・著書・論文・調査報告等

2015 年 9 月 熊木俊朗「遺跡の保存整備と遺跡博物館の歴史 I 北海道地域」青木豊・鷹野光行編『地域を活かす遺跡と博物館』、同成社、107-117 頁。

2015 年 11 月 熊木俊朗「オホーツク文化とアイヌ文化」『季刊考古学』第 133 号、80-81 頁。

2015 年 12 月 熊木俊朗「熊骨偶」設楽博己編『十二支になった動物たちの考古学』、新泉社、口絵 15。

2016 年 3 月 熊木俊朗「「オホーツク海岸の冬ごもり」から春さり来れば」『史学雑誌』第 125 編第 3 号、36-38 頁。

2016 年 3 月 熊木俊朗編『擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動 一 大島 2 遺跡

の研究(1)ー』東京大学常呂実習施設研究報告第14集、東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設、119頁。

2016年3月 熊木俊朗『ところ文庫32 トコロチャシ跡遺跡群の発掘』、常呂町郷土研究同好会、82頁。

・口頭発表(レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある)

2015年5月 熊木俊朗「続縄文後半期・オホーツク期・擦文期における「サハリン・ルート」の交流」高瀬克範編『「サハリン・千島ルート」再考』北海道考古学会、33-46頁、北海道大学(口頭発表)。

2015年11月 福田正宏・Grishenko, V. A.・大貫静夫・Vasilevsky, A. A.・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・Gorshkov, M. V.・Shpovalov, A. M.・Gaburilchuk, M. A.・森先一貴・内田和典・夏木大吾・Shevkomud, I. Ya.「環日本海北回廊の考古学的研究-到達点と今後の課題-」『日本シベリア学会 第1回研究大会』日本シベリア学会、北海道大学。

2015年12月 熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀「北見市 大島2遺跡」北海道考古学会編『2015年度遺跡調査報告会資料集』、北海道考古学会、63-70頁、北海道大学(口頭発表)。

2016年2月 熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀「擦文文化堅穴住居跡の構造と廃絶儀礼について」『第17回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、32-35頁、金沢学院大学(口頭発表)。

2016年2月 夏木大吾・山田・中村雄紀・廣松滉一・吉留頌平・尾田識好・佐藤宏之・熊木俊朗・小澤太一・木之内忍・ツイデノバ、ナタリア「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果(第9次)」『第17回北アジア調査研究報告会 発表要旨集』北アジア調査研究報告会第17回大会事務局、2-5頁、石川県立歴史博物館。

・講演、特別授業等

2015年4月 熊木俊朗「オホーツク文化を発掘するー遺跡の調査でわかった古代オホーツク人の暮らしー」(第43回北見市民大学講座第2講座、北見市民会館、北海道北見市)

2015年10月 熊木俊朗「大学で考古学を学ぶ」(北海道佐呂間高校第一学年宿泊研修特別授業、ところ埋蔵文化財センター、北海道北見市)

(夏木関連分)

・著書・論文・調査報告等

2015年5月 夏木大吾「玄蕃所遺跡における石器群の考察」『東京大学構内遺跡調査研究年報』9、東京大学埋蔵文化財調査室、161-164頁。

2015年5月 夏木大吾「玄蕃所遺跡 東京大学検見川体育セミナーハウス地点発掘調査報告書 旧石器時代」『東京大学構内遺跡調査研究年報』9、東京大学埋蔵文化財調査室、134-153頁。

2015年7月 夏木大吾「北海道の晩氷期□細石刃・遊動□」『季刊 考古学』132号、雄山閣、59-62

頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2015年7月 KAZUKI M, NATSUKI D, “Human behavioral change and the appearance of Incipient Jomon pottery”. XIX INQUA Conference, 50, Nagoya, Japan.

2015年11月 NATSUKI D, SATO H “Invisible hearths and restoring human behavior: High resolution archaeological analysis at Yoshiizawa Site of northern Japan”. 20th International Symposium for the 30th Anniversary of the 1st Site Excavation: SYANGGAE and Her Neighbours in Korea, 211-218, Cheongju, Korea.

2015年5月 夏木大吾・佐藤宏之・山田哲「炉周辺における人間活動と遺跡構造の関係性」北海道北見市吉井沢遺跡の事例より□」北海道旧石器文化研究会、北海道大学。

2015年11月 福田正宏・Grishenko, V. A.・大貫静夫・Vasilevsky, A. A.・佐藤宏之・熊木俊朗・國木田大・Gorshkov, M. V.・Shpovalov, A. M.・Gaburilchuk, M. A.・森先一貴・内田和典・夏木大吾・Shevkomud, I. Ya.「環日本海北回廊の考古学的研究-到達点と今後の課題-」『日本シベリア学会 第1回研究大会』日本シベリア学会、北海道大学。

2016年2月 夏木大吾・山田・中村雄紀・廣松滉一・吉留頌平・尾田識好・佐藤宏之・熊木俊朗・小澤太一・木之内忍・ツイデノバ, ナタリア「北海道北見市吉井沢遺跡の調査成果（第9次）」『第17回北アジア調査研究報告会 発表要旨集』北アジア調査研究報告会第17回大会事務局、2-5頁、石川県立歴史博物館。

2015年12月 熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀「北見市 大島2遺跡」北海道考古学会編『2015年度遺跡調査報告会資料集』、北海道考古学会、63-70頁、北海道大学（口頭発表）。

2016年2月 熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀「擦文文化竪穴住居跡の構造と廃絶儀礼について」『第17回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、32-35頁、金沢学院大学（口頭発表）。

（5）教育普及活動

①遺跡発掘体験講座

主催	東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会
開講日時	平成27年8月22日 10:00～12:00
プログラム等	①遺跡の概要説明と見学 大島遺跡群 ②遺跡発掘体験 大島2遺跡4号竪穴
講師	熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）
参加者	一般4名・小学生等3名（網走市ほか）

②第 19 回文学部公開講座

主催	東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会・常呂高等学校振興協議会
開講日時	平成 27 年 10 月 9 日 (①13:30～14:40、②18:30～21:00)
プログラム等	①常呂高校特別講座 (会場：常呂高等学校体育館) 「若者にとっての高齢社会 ー未来をどう描くのかー」(講師：白波瀬 佐和子 東京大学大学院人文社会系研究科教授) ②北見公開講座 (会場：北見市民会館小ホール) 第 1 講 「私たちの漢字と秦の文字統一」(講師：大西 克也 東京大学 大学院人文社会系研究科教授) 第 2 講 「『忠臣蔵』と切腹」(講師：古井戸秀夫 東京大学大学院人文社 会系研究科教授)
東大関係出席者：	白波瀬佐和子・大西克也・古井戸秀夫・大貫静夫(人文社会系研究科教授)・ 熊木俊朗・夏木大吾・増田浩一(文学部事務長)・ほか東京大学職員 2 名

③企画展

テーマ	常呂町 大島 2 遺跡 発掘調査速報展 (常呂町ふるさと芸術祭作品展示)
会期	平成 27 年 10 月 31 日～平成 27 年 11 月 4 日
会場	常呂町多目的研修センター2F
主催	常呂町郷土研究同好会
協力	東京大学常呂実習施設、北見市教育委員会
展示概要	東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室・常呂実習施設が 2009 年 度より継続して実施している大島 2 遺跡の発掘調査について、擦文文化の 竪穴住居跡と出土遺物を中心に成果を紹介。
テーマ	第 5 回企画展「続縄文文化と交流」
会期	平成 28 年 3 月 14 日～平成 28 年 5 月 13 日
会場	常呂資料陳列館 3F 企画展示室
協力	北見市教育委員会、常呂町郷土研究同好会
展示概要	続縄文文化は、紀元前 4 世紀頃から紀元 7 世紀頃に、北海道を中心とした 地域に広がっていた先史文化である。「続縄文」の名称は「縄文式の文化 がその後も続いた」という理解に基づくものだが、それは決して閉じた文 化ではなく、周辺地域との交流はむしろ活発化している。この企画展では 続縄文文化と交流をテーマとして、常呂川下流域に展開していた続縄文文 化が道央部以南や北方地域とどのような交流をおこなっていたのかをみ る。

④広報活動

常呂実習施設・常呂資料陳列館 Website の更新 (随時) <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

⑤非常勤講師・委員委嘱等

(熊木関連分)

日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師 (平成 27 年 4 月～9 月)
日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員 (平成 26 年 5 月～平成 28 年 5 月)
北海道立北方民族博物館研究協力員 (平成 26 年 5 月～平成 30 年 3 月)
北見市史編集委員会委員 (平成 24 年度～平成 29 年度)
北見市史跡整備専門委員 (平成 27 年 12 月～平成 28 年 12 月)
北見市文化財審議委員会委員 (平成 26 年 3 月～平成 28 年 3 月)
北見市常呂自治区社会教育推進会議 委員 (平成 26 年度～平成 27 年度)
北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル北見運営協力委員会委員 (平成 26 年 10 月～平成 28 年 3 月)
常呂川流域文化遺産活用推進事業実行委員会 委員長 (平成 26 年度～平成 27 年度)
斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員 (平成 27 年 10 月～平成 30 年 3 月)

(6) 実習施設利用状況

①研究者の主な受入状況 (前記 (4) 調査研究活動の項に記載したものは除く)

平成 27 年 5 月 岩瀬彬 (首都大学東京人文科学研究科・助教) 「吉井沢遺跡の資料調査」
平成 27 年 5 月 林正之・守屋亮 (東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程)、山下優介・湯澤丈
(東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程) 「大島 2 遺跡の整理作業」
平成 27 年 7 月 岩瀬彬 (首都大学東京人文科学研究科・助教) 「吉井沢遺跡の資料調査」
平成 27 年 9 月 高倉純 (北海道大学埋蔵文化財調査センター・助教) 「大正 1 遺跡の資料調査」
平成 27 年 9 月 猪野光太郎 (東京大学大学院農学生命科学研究科・修士課程) 「東京大学常呂資料陳
列館の見学」
平成 27 年 10 月 夏木大吾 (首都大学東京大学院人文科学研究科・助教) 「吉井沢遺跡の資料調査」、
吉留頌平・廣松滉一 (首都大学東京大学院人文科学研究科・修士課程)、小澤太一・木之内忍
(東京大学文学部・学生)

②学生宿舎稼働状況 (実習含む 単位：宿泊者 1 人あたり宿泊数の和)

4 月 : 0	5 月 : 26	6 月 : 20	7 月 : 2	8 月 : 283
9 月 : 99	10 月 : 30	11 月 : 0	12 月 : 0	1 月 : 91
2 月 : 26	3 月 : 0			

合計：577名

③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

4月：11	5月：50	6月：24	7月：85	8月：79
9月：77	10月：34	11月：17	12月：2	1月：15
2月：2	3月：0			

合計：396名

④資料貸出等

映像全集「日本 名所旧跡の旅 DVD版・ブルーレイ版 第一巻 北海道」（（株）創朋）

クマ骨偶（トコロチャシ跡遺跡・栄浦第二遺跡出土） 映像撮影

設楽博己編著「十二支になった動物たちの考古学」（新泉社、2015年12月刊）

クマ骨偶（トコロチャシ跡遺跡出土） 写真1点（データ提供）

北海道観光振興機構 website GoodDay 北海道（北海道観光振興機構）

クマ骨偶（トコロチャシ跡遺跡出土）・モヨロ貝塚7号竪穴骨塚 写真各1点（データ提供）

国土交通省北海道開発局「北海道における歴史・文化を活用したインバウンド観光の振興調査」アンケート（2015年11月～12月実施）

クマ骨偶（トコロチャシ跡遺跡出土） 写真1点（データ提供）

大島直行著『縄文人の世界観』（国書刊行会、2016年3月刊）

北筒式土器（トコロ貝塚出土） 写真1点（ポジフィルム）

（7）組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 熊野純彦（併任 研究科長・学部長）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名、委員4名）

准教授 熊木俊朗

助教 夏木大吾

有期雇用職員 2名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 熊野純彦（併任 研究科長・学部長）

（文責：熊木俊朗）